

川瀬あんずさんが モンゴルへ (12月16日)

青年海外協力隊のボランティアとして2年間派遣されることが決まっている川瀬あんずさんが、12月16日に泉市長を訪問されました。

川瀬さんの派遣先はモンゴルの首都ウランバートルから約135km離れたバガノール地区という人口急増地域。貧困層の居住地域を中心に感染症などが増加の傾向にあるこの地域で、公衆衛生の指導活動などに取り組まれる予定です。



「病院で勤務していた際の知識・経験を活かし、地域の衛生環境を高めたい」と抱負を語る川瀬さんのモンゴルでの活躍を期待したいですね。

嘉田知事と みらいつくり隊員が 意見交換 (12月11日)

県内の先進的な取り組みや特色のある活動を行っている企業や施設などを訪問し、関係者と対話する県の事業「おじゃまします！知事です」が12月11日、甲賀区で開催され、嘉田知事とみらいつくり隊員の意見交換が行われました。

会場となった田仲隊員のお店「no-ho-ho-n」には、地元区長でもある東草野まちづくり懇話会の法雲座長



や、地元で活躍する「摘み取り農園」のみなさんも参加。終始和やかな雰囲気の中で意見交換が行われ、地域活性化と自分の夢の実現に向け、地域の方々と協力しながら活動に取り組む隊員のみなさんに、知事からも温かいエールが送られました。

市長 エッセイ
みね日和
びより

昨年の世相を表す漢字に「絆」が選ばれたことは皆さんの記憶に新しいことと思いますが、振り返りますと、昨年の日本は3月の東日本大震災をはじめ大型の台風による大雨被害など各地で多くの災害に見舞われた一年でした。本市でも台風6号の大雨により初めて避難勧告を発令したほか、丹生川が土砂で埋まるなどの被害が発生しました。

一方で、こうした災害時であっても支えあう人々との絆や支援の輪が広がり、「絆」の大切さを改めて気付かされる年でもありました。

私も市長に就任して以来、「絆」が地域防災をはじめ子育てや過疎高齢化対策、地域福祉など、あらゆるまちづくりの基盤となるものと考え、「まいばら親子の絆プロジェクト」や「絆マップ」、「絆バトン」の取り組みのほか、人と地域をつなぐ「水源の里まいばらみらいつくり隊」による地域の活力づくりなど、親子の絆、地域の絆をはじめとする様々な人と人との絆づくりを展開してきました。

今年も「絆」を市政の軸に据え、安心・安全で活力のある「絆で築く元気な米原市づくり」の実現に向け全力でまい進してまいります。

米原市長 泉峰一

(1月4日記)